

## 平成30年度 塩尻市福祉教育委員会行政視察報告

### ○福島県伊達市（10月16日）

- ・議長 高橋一由 ・議会議務局長 三浦敏徳 ・庶務係長 秋葉仁史
- ・健康福祉部健幸都市づくり課長 長沢弘 美

#### 市の概要

- ・人口 61,207人 ・面積 265.1km<sup>2</sup>
- ・沿革 平成18年1月1日  
伊達町・梁川町・保原町・霊山町・月館町の5町が合併し伊達市が発足した。
- ・議員数 22人 4常任委員会（総務生活・文教福祉・産業建設・予算決算）

### 1 健幸ポイント事業について

#### 1) 健幸都市を目指しての取り組み

- ・伊達市健幸都市基本構想（安心して子育てができ、安心して歳がとれるまち）  
平成23年度策定
- ・伊達市健幸都市基本条例  
平成25年度策定
- ・伊達市健幸都市基本計画  
平成26年度策定

#### 2) 予防重視型の健康づくり施策

##### ○健康づくりの取り組み

- ・元気じゃ脳教室 ・元気づくり会 ・元気クラブ ・健康運動教室

##### ○健幸都市モデル地区の設定（2地区指定）

#### 3) 市街地「掛田地区」 ・理由 この地区は医療施設・福祉施設が整備され、公共施設、商店街がコンパクトに歩ける距離にあり、歩いて暮らせるまちづくりの実践ができる地域。

- ・インフラ整備 歩行者用路面標示やゾーン30の指定
- ・ポケットパーク整備 公園整備と健康器具設置。沢山の人が利用
- ・既存の養蚕農家建物を喫茶店にNPOによる管理
- ・イベント、フェスティバル等のソフト事業実施。

- 4) 中山間地 「白根地区」 ・理由 オリンピック選手三浦弥平を輩出した歴史的背景や豊かな自然環境に恵まれ、集落コミュニティが強い地域で住みたい、住んで良かったと思える地域。
- ・高齢者専用共同住宅は入居者同士が助け合い、中山間地の高齢者だけの暮らしや、一人暮らし家庭を山間地から市街地に移設し国民年金の範囲で入居できる。
  - ・やってみっぺプロジェクト 健康サロン事業、登山ルートの整備、散策・周遊ルートの開発、地域スポーツクラブの実践。

#### 5) 健幸ポイント事業について

○大規模実証実験実施（平成26年度から平成28年度）

○平成29年度から本格実施

- ・8月2日 日本郵便との事業連携協定締結。  
市内19の郵便局に体重計、体組成計を置き計測できる。
- ・歩数や健康づくり活動の取り組み内容に応じ、ポイントを付与。
- ・ポイントを貯めて応募抽選で賞品贈呈
- ・加入年齢40歳以上、参加者909人  
(スマホ参加者480人、記録用紙参加者429人)  
その内男性20%、女性80%であったが、現在妻の呼びかけで男性35%、女性65%)
- ・H30年度9月末現在 471人  
(H29年登録者に追加、男性151人、女性320人)
- ・歩数計は全員に支給しスマホに記録か記録を歩数記録表に記入。
- ・特定検診受信で高ポイント。
- ・ポイントの交換方法は商品券で交換する。万歩計約6,000円支給
- ・H30年6月 web上でのポイント管理、測定データ管理となる。
- ・頑張ってますポイント、毎月平均歩数付き最大800ポイント
- ・健康診断受けたよポイント、受診が確認できた際に1,000ポイント

#### 質疑応答

Q 人口減は合併時と比較すると、12年間で1万人減少したとのことだが、原因は原発事故関連か。

A 多少はあるかもしれないが、社会減が主な理由です。

Q 募集人員1,000人であるが、今後の考え方は継続するのか。

- A 3年を目途に行い、その後はボランティアかNPOが継承しよう考えている。
- Q 人減ドックは対象か A 対象です
- Q 景品は商品券市内だけの扱いか A 市内だけです。
- Q 歩数計や商品券代金等は商工会議所からの負担あるか。
- A 全額市負担
- Q 歩くことが健幸の最初の提案者は A市長です。6年位検討した。

(感想)

この事業6年間検証し実施してきたのに、まだまだ会員や参加者が少ない中で、あと3年位で民間に継承する考えとのこと成功に繋がるか心配。



○秋田県仙北市行政視察（10月17日）

- ・副議長 黒沢龍巳 ・議会事務局長 三浦清人 ・議会事務局参事 高階栄子
- ・文化財課長 富木弘一 ・文化財課課長補佐 山形幸子

市の概要

- ・人口 27,523人 ・面積 1,093.56km<sup>2</sup>
- ・沿革 2005年に旧田沢湖町、角館町、西木村の合併に伴い、一般公募し合併協議会で仙北市に決定した。
- ・議員数 18人 4常任委員会（総務文教・市民福祉・産業建設・予算）

## 1 角館重要伝統的建造物群保存地区について

### 角館の歴史

角館城下町の形成は、天正18年(1590)戸沢氏が角館城を築城したのが始まり、その後慶長8年芦名氏1万5千石に代わり、町が狭い上、河川の氾濫や火災に悩まされ、元和6年に現在地に移り現在の町の骨格となった。

### 1) 保存と現在の状況

- 昭和48年6月29日町内有志が武家屋敷保存協議会を結成。
- 昭和49年10月9日武家屋敷の枝垂れ桜国の天然記念物に指定153本
- 昭和51年9月4日(6.9ha)が重要伝統的建造物保存地区に選定
- 角館は重伝建選定第1号で、岐阜県白川村、京都市、山口県萩市など6件とともに選定された。
- 地区住民の高齢化やそれに伴う空き家対策、住居の所有者移転、観光化に伴う弊害として、土産物店の看板・のぼりなど屋外広告物の増加が挙げられる。
- 武家町としての景観を維持し、生活者・来訪者ともにより良い環境を作り後世に引き継ぐため、平成19年10月から「仙北市角館伝統的建造物群保存地区路上喫煙の禁止等に関する条例」を施行した。
- 平成20年3月には、仙北市角館伝統的建造物群保存基金が創設された。
- 重伝建はこれまで住みながら町並みを守ってきた。
- 商店出店はここに住み、生活されている人には許可している。
- 年間の観光客数市内観光施設255万人位。

### 2) 今後の取り組み

- 地区内の景観を阻害する広告物の撤去など外から見た「武家町らしさ」を地域住民の意識の醸成を図る。
- 地区の高齢化や、観光化に伴い武家屋敷の外観を維持居住し保存する。
- 「商家群」「武家町」に住む人々の生活環境を守りながら、町並みを守っていききたい。

### 質疑応答

Q 市の管理体制は

A 担当課 職員4名 4件の武家屋敷を市が管理している。

- Q 修復予算は                    A 維持費1,500万円/年 別途工事費計上
- Q 武家屋敷の経済効果は
- A 2～3時間滞在 宿泊施設が少ないので効果は少ないと思われる。
- Q 冬の観光客は                A 雪は1～2メートル積るため、観光客は少ない
- Q 外国人の観光客は         A 台湾、中国、米国バックパッカーが多く、年間約4万人位。
- Q 桜153本が天然記念物に指定された、手入れ方法と制約のクリアはどうか
- A 市の中に造園資格所有者がいるので、その皆さんが対応。剪定は了解をいただいている。
- Q 武家社会の構図は            A 武士280戸（220戸、60戸足軽）
- Q 雪が多い事への対策は       A 住宅を守るため、雪囲いする等大変

（感想）

武家屋敷の町並みは道路巾も広く直線で、江戸時代に作られた町区画とは思えない、交差点はマス型地形で、また武家屋敷の黒塗りの板塀も統一され印象深く、各家の敷地内に植わる、縦の大木や枝垂れ桜等の庭木も大切にされ、敷地は「武家町」内町と「商家群」外町は火除けと呼ばれる土塁で完全に分離され、江戸時代の武家社会の歴史と伝統が感じられ大変素晴らしかった。



○秋田県秋田市（10月17日）

## ◎赤れんが郷土館視察

- ・旧秋田銀行本店として、明治42年工事着手、45年完成し使用されていたが、昭和56年に秋田市に寄付された。
- ・秋田市では明治期の貴重な洋風建築を後世に残すべく修復を行い、昭和60年に秋田市立赤れんが郷土館として開館した。
- ・2階では郷土秋田の歴史、民俗、美術工芸に関する展示をしている。

## ○秋田県秋田市（10月18日）

- ・議会議務局議事課長 関 浩 ・議事課調査担当主席主査 高橋淳子
- ・子ども総務課主席主査 牧野悌子 ・子ども総務課総務担当主事豊 島大樹

### 市の概要

- ・人口 315,814人
- ・面積 906.07km<sup>2</sup>
- ・議員定数 39名 5常任委員会  
(予算決算、総務、厚生、教育産業、建設)

## 1 あきた若者サポートステーション事業について

○働くことに悩みを抱えている15歳から39歳までの若者に対し、キャリア・コンサルタントなどによる専門的な相談、コミュニケーション、訓練などによるステップアップ、協力企業への職場体験などにより、就労に向けた支援を行う。

- ・働きたいが、どうしたらよいかわからない。
- ・働きたいが、自信を持って一歩を踏み出せない。
- ・働きたいが、人間関係のつまずきで退職後、ブランクが長くなってしまった。

○若者自立支援事業（平成26年度から実施） 15歳～39歳対象

- ・社会参加に困難を有する若者に対して、職業体験による就労支援を図る。
- ・社会人として求められる基礎的な能力の向上、就労の決定・定着を図るため、仕事塾を開催。

○職業体験コーディネート開催により

- ・しごと塾参加者数、70人（5月から3月）
- ・平成29年度実績は新規開拓事業所数14社登録され、また仕事塾の開催により効果に結びつき、13名の就職決まった。
- ・支援を必要とする人へのアプローチと、相談支援にどうつなげるかが課題。

## 質疑応答

- Q NPO等への年間委託料は、また継続性は
- A H25～28 300万円 H29年 618万円
- Q サポートステーションの具体的なものは
- A NPO法人が行い、職員10人、その他に事業の卒業生もお手伝いしている。
- Q 施設を利用する人たちはどの様に知ったのか。
- A ホームページ、親が連れてきたり、多方面から情報を得ている。
- Q 事業者側の反応は。
- A 思っていたより真面目に取り組んでいる。

## 2 秋田市元気な子供のまちづくり企業認定・表彰制度について

目的「仕事と子育ての両立支援」や「子育てにやさしい活動」に取り組む企業を認定・表彰し、子育てを社会全体で支える地域づくりを目指すもの。

- 1) 対象 秋田市内に本店・支店・事業所等がある企業。（公益法人、NPO法人、個人事業主等を含む）
- 2) 認定方法 企業の取り組みが「秋田市元気な子どものまちづくり企業認定基準」に該当し、その合計点が8点以上である企業を、事業所単位で認定をする。
- 3) 表彰 認定企業のうち、特に優れた取り組みをしている企業について表彰企業選考委員会の審査により決定する。
- 4) 取り組みの効果  
平成28年度から事業を開始し、平成30年9月末で市内企業155社を認定し、認定企業への聞き取り調査では、徐々に子育てを社会全体で支える気運に繋がってきた。

## 質疑応答

Q 登録した企業はどんな企業か。

A 大手企業3割、薬局、保育所、個人企業。

Q 認定、表彰チェックの方法は。

A 外部委員で行っている。

Q 表彰は何社くらいか。

A 優秀企業3社、優良3社

Q 優遇措置は

A 工事関係入札に平成30年から。

(感想)

人口減少社会に向かう時代に、このような地道な取り組みや活動が大切であると思う。将来どの位の効果で結びつくか興味が湧いた。

